

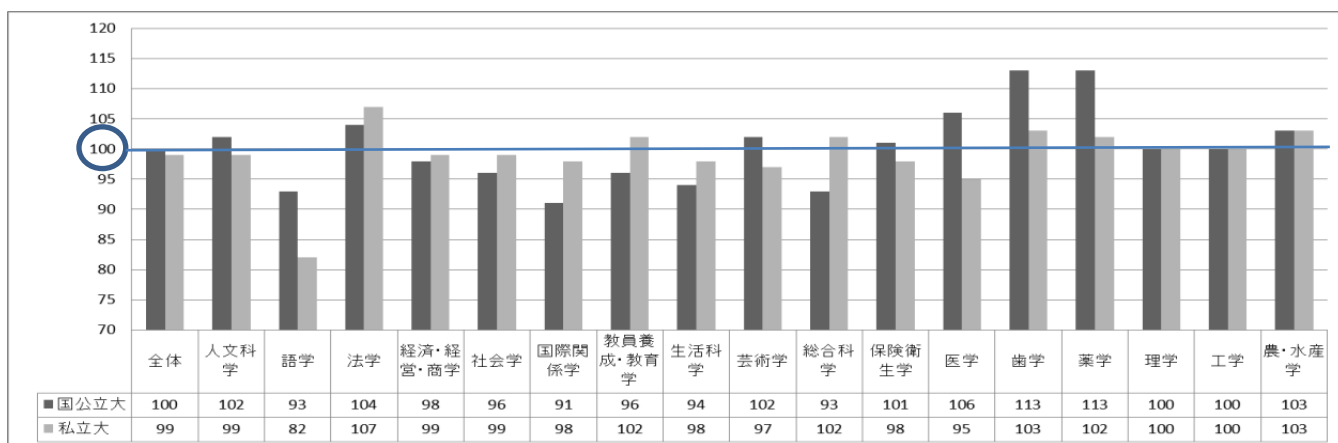
## ＜一般選抜に向けて＞

まず46期生の学校推薦型選抜（指定校・公募）・総合型選抜（AO）の受験者および合格者数（46期生に関しては12月15日現在）について報告する。

＜46期生＞								＜45期生＞（参考）							
	大学		短大		専門			大学		短大		専門			
	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者		合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者		
指定	79	79	6	6	7	7	指定	89	90	4	4	9	9		
公募	22	38	0	1	3	3	公募	29	47	2	2	6	9		
総合	41	62	5	6	8	8	総合	40	61	3	3	21	21		
他	3	3	0	0	4	5	他	2	4	0	0	0	0		
合計	115	145	11	13	22	23	合計	160	202	9	9	36	39		

※45期生は10学級

昨年度同様、推薦・AOを受験する生徒が多くみられた。昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、受験生の「超安全志向」「早期決定志向」は続いている。一方で、今年から全大学の入学定員より受験人口の方が少ない本当の意味での「大学全入時代」が到来している。以前から続いていた入試の難化も収まり、各予備校の報告では難化以前の水準にまで戻っている。しっかりと準備を整え、受験校を絞りすぎずに幅広く受験することで満足できる結果が得られるだろう。



第1回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試 学部系別志望動向  
(数値は前年の志望者を100とした際の指数)

上のグラフは、今年度の志望動向を表したものである。指数が100を越える学部系は昨年より人気が高く、下回っている学部系は人気下がっていることを表す。今年度の特徴としては、法学系統が高い人気となっている。また、より細かく見ると情報学系統も人気である。背景には、不安定な情勢に対する公務員志望の高まり、コロナ禍によるリモート授業やタブレットの導入など、ICTに触れる機会の増加が挙げられるであろう。これらの学部・学科を受験する場合は、受験校を増やしたり、受験学科を幅広く（情報であれば、電気電子・情報工学・情報通信など）選択したりすることをお勧めする。一方で、語学や国際系の分野については新型コロナウイルス感染症の収束が不透明なこともあり、人気は以前に比べるとそれほど高くないが、依然として上位層は多いので注意が必要である。

いずれにしても、これまでの模試の成績データから受験校を決め、受験校への対策をしっかりと行うことで合格を勝ち取れるはずだ。これから一般受験に向かう3年生の頑張りに期待している。